

公益社団法人 日本水産学会
令和元年度第6回理事会議事録

- 1 開催された日時 令和元年11月30日(土)13時00分～16時20分
(休憩 15時16分～15時26分)
- 2 開催された場所 国立大学法人東京海洋大学品川キャンパス2号館200A-2
(東京都港区港南4-5-7)

3 理事総数及び定足数

総数 19名, 定足数 10名

4 出席理事総数 18名

(本人出席) 岡崎恵美子, 家戸敬太郎, 金子豊二, 黒倉 寿, 小梶 聡, 越塩俊介, 佐藤秀一, 高野みゆき(旧姓:馬久地), 東海 正, 中田英昭, 萩原篤志, 日向野純也, 舞田正志, 安井 肇, 横山芳博, 吉崎悟朗, 良永知義, 和田時夫

(出席監事) 北田修一, 杉田治男

(出席幹事) 坂本 崇, 遠藤雅人, 二羽恭介, 福島英登, 矢澤良輔, 甘糟和男

5 議 案

決議事項

- 第1号議案 「会費免除承認」の件
- 第2号議案 「令和2・3年度東北支部担当理事候補者の推薦」の件
- 第3号議案 「令和元年度日本水産学会各賞受賞者の決定」の件
- 第4号議案 「遠隔会議導入に伴う規程の一部改正」の件
- 第5号議案 「Web会議システム Zoom の導入」の件
- 第6号議案 「会計処理規程の一部改正」の件
- 第7号議案 「職員育児・介護休業規程の一部改正」の件
- 第8号議案 「学会誌著作権ポリシー及び投稿規程の一部改正」の件
- 第9号議案 「漁業懇話会委員会委員及び水産政策委員会委員の交代」の件
- 第10号議案 「業務管理システムのプログラム改修の業務委託契約書」の件
- 第11号議案 「水産学シリーズ156の中国語翻訳出版契約書」の件
- 第12号議案 「沿岸環境関連学会連絡協議会への参加に伴う経費支出」の件
- 第13号議案 「男女共同参画学協会連絡会への参加形態変更」の件
- 第14号議案 「令和2年度春季大会における発表を行わない学部学生の参加費無料化の試み」の件
- 第15号議案 「Fisheries Science 86巻における会員販売促進の継続」の件
- 第16号議案 「日本水産学会誌86巻における会員販売促進の継続」の件
- 第17号議案 「令和2年度日本農学賞受賞候補者の推薦」の件
- 第18号議案 「令和2年度日本農学会運営委員の選出」の件
- 第19号議案 「後援」の件
- 第20号議案 「入会承認」の件

報告事項 ①第5回理事会以降の職務執行の状況

② その他確認事項

6 議事の経過及びその結果

(1) 定足数の確認等

佐藤会長が定足数の充足を確認し、続いて本会議の議事進行について説明があった。

(2) 議案の審議状況及び議決結果等

定款の規定に基づき、佐藤会長が議長となり、本会議の成立を宣言し、議案の審議に移った。

(決議事項)

第1号議案 「会費免除承認」の件

吉崎総務担当理事から、会員に関する規則第5条第1項に基づき、9名の会員を対象に会員免除することについて説明がなされ、審議の結果、当該会員の会費を令和2年度から免除することを出席理事全員一致で可決した。

第2号議案 「令和2・3年度東北支部担当理事候補者の推薦」の件

吉崎総務担当理事から、東北支部担当理事については選挙の結果、落合芳博会員が全票を獲得し、次点なしという結果であったので、役員候補者選出規程第10条第3項により理事会として現支部長の平井俊朗会員を東北支部担当理事候補者として推薦したいとの意向が説明された。理事会で承認が得られれば、東北支部の支部幹事に諾否を取る。本件について審議の結果、出席理事全員一致で可決した。

第3号議案 「令和元年度日本水産学会各賞受賞者の決定」の件

萩原学会賞担当理事から、学会賞選考委員会が令和元年9月8日に開催され、松永委員長から下記の通り、令和元年度日本水産学会各賞の受賞候補者について理事会へ推薦されたとの説明があった。本件について以下の質疑応答があった。

金子理事 「水産技術賞の最初の3名は会員という説明であったが、会員でよろしいか。会員でなくても受賞者となり得る。」

萩原理事 「会員であるかは調べる必要があるが、いずれにせよ問題はない。候補者の氏名を〇〇会員と紹介したが、不適當であった。」

北田監事 「進歩賞も同様に会員でなくとも受賞者になり得るのか。」

東海理事 「学会誌に受賞者の業績があればよい。」

審議の結果、出席理事全員一致で以下のとおり可決した。

日本水産学会賞

奥澤公一 「魚類の性成熟に関する内分泌学的研究」

山本民次 「水産環境の保全・修復に関する研究」

日本水産学会功績賞

岡崎恵美子 「水産物の高付加価値化に関する研究」

黒倉 寿 「自然科学と社会科学の融合によって水産学を総合科学として再定義した業績」

水産学進歩賞

- 神山孝史 「沿岸域における微小動物プランクトンの動態と微生物食物網での機能に関する研究」
- 巢山 哲 「サンマの齢査定の確立と資源生物学的研究」
- 引間順一 「魚類の病原微生物に対する自然免疫システムに関する研究」
- 森田健太郎 「サケ科魚類の生活史特性と個体群過程からアプローチした生物資源保全学研究」

水産学奨励賞

- 金 禧珍 「餌料生物の生理・遺伝学的研究と仔魚への給餌効果」
- 小祝敬一郎 「分子生物学的手法を用いたクルマエビ血球細胞の分類」
- 小山寛喜 「水産無脊椎動物の生息塩分と体成分の変化に関する食品生化学的研究」
- 須藤竜介 「ニホンウナギの産卵回遊の開始機構に関する生理生態学的研究」

水産学技術賞

- 稲野俊直 } 「高温耐性ニジマスの作出と高温耐性の生物学的評価」
- 田牧幸一 }
山田和也 }
- 風藤行紀 } 「ウナギ生殖腺刺激ホルモンを用いた人為催熟・採卵技術の高度化とその応用に関する研究」
- 田中寿臣 }
亀甲武志 } 「ホンモロコ資源の持続的利用にむけた資源管理技術の開発」

第4号議案 「遠隔会議導入に伴う規程の一部改正」の件（別紙1）

吉崎総務担当理事から、理事会運営規程、編集委員会運営規程及び論文賞受賞規程の一部改正について原案の説明があった。本件について以下の質疑応答があった。

- 金子理事 「理事会については厳密な規則の規定が必要となるが、その他の委員会での厳密な規則の必要性についてはどのように考えるべきか。」
- 吉崎理事 「多くの委員会運営規程に委員会成立要件の記載がないので規程は現行のままでも問題ないが、守秘義務についてはしっかり記載しておいた方が何かあったときの策として安全であると考えられる。」
- 金子理事 「理事会の場合と他の委員会は異なると考えられる。理事会に関しては厳密な規程に基づいて運営する必要がある、内閣府公益認定等委員会も注視している。それ以外の委員会についてはどのような対応が良いか。」
- 東海理事 「理事会は議事録を正しく残して最終的には公益認定等委員会事務局に提出するのでしっかり作成しなければならない。他の委員会も同様に公益目的事業として実施されている部分では公平性・公正性を担保する必要がある、この点があいまいにならないように委員会の規程や議事録でしっかり記載をしておく、問題を指摘されることがなくなると思われる。」

- 金子理事 「委員会設置規程の中にこれらの内容を記載してはいかがか。」
- 黒倉理事 「構成としてこの内容は設置規程ではなく、運営規程で定める内容である。」
- 金子理事 「各委員会の運営規程の中でしっかり明記することが必要であるということによろしいか。」
- 東海理事 「はい。その中で表彰等の公益目的事業に関わる場所はしっかり明記しておいた方が良いということで編集委員会では論文賞の規程改正を提案した。公益目的事業という面では他には学会賞があるが、委員会内で遠隔会議システムを利用する議論はまだあまりない。」
- 良永理事 「一部の規程に遠隔会議が可能であるという内容を加えてしまうと他の規程では不可能という読みにはならないか。」
- 金子理事 「必ずしも他の委員会の規程に影響を受けることもないと思われる。」
- 良永理事 「遠隔会議を導入しない場合は構わないが、いざ導入となった場合には同様の文言が必要ではないか。」
- 舞田理事 「委員会の運営規程には委員会の開催について書面による審議をもって委員会開催にかえることができるという文言があるがこれはメール会議を想定したものである。これを書面、または遠隔会議によると換えれば良いのではないか。」
- 佐藤会長 「これまでの議論をまとめると必要に応じて各委員会で規程を変更する議論をしていただければ良いと考えられる。」
- 舞田理事 「理事会運営規程の改定には「守秘事項を含む議事の場合には」とあるが、判断が難しい。全体に係ることなので削除してはどうか。遠隔会議では第三者に情報が漏えいしないということが遠隔会議に参加する場所も含めて重要である。」
- 吉崎理事 「情報漏えいを防ぐという観点からまとめると「守秘事項を含む議事の場合には」を削除するとともに文末の文言を「策を講じるものとする」という文言にしてはどうか。」
- 佐藤会長 「この点については文言の統一を図るべきである。」
- 黒倉理事 「システムは結構ぜい弱で悪意を持てば簡単に守秘情報を得ることができる。そのことに対して責任を持つということの文言が重要ではないか。」
- 萩原理事 「システムの情報漏洩に関してどのようになっているのか。システムの脆弱性の度合いも規程の文言に関連してくるのではないか。」
- 吉崎理事 「システムそのものの安全性については現在考えられるセキュリティーの策は講じられていると説明されている。」
- 佐藤会長 「理事会運営規程の第7条第2項を編集委員会運営規程第4条第4項と同様の文言にする。編集委員会運営規程第4条第4項の「漏

洩防止に対して措置を講じる」を「漏洩に対して防止措置を講じる」とする。」

佐藤会長 「規程についてはそれぞれの委員会で検討をしていただきたい。遠隔会議システムを利用した際に投票はできるのか。」

吉崎理事 「導入予定の Web 会議システム Zoom には投票システムが搭載されている。」

審議の結果，原案を一部修正のうえ，出席理事全員一致で別紙のとおり可決した。また，他の委員会規程には委員会の成立要件が記載されていないので規程の改正の必要はないが，遠隔会議システムを利用して委員会を開催した場合，そのことを必ず議事録に記録を残すよう担当理事から周知してほしいとの要請がなされた。

第 5 号議案 「Web 会議システム Zoom の導入」の件

吉崎総務担当理事から，機材及び利用費，遠隔地の理事の旅費も含めて原案の説明がなされた。本件について以下の質疑応答があった。

金子理事 「旅費の説明があったが，遠隔会議システムを導入したからと言って主会議場に出てこないでくれと言っているわけではない。誤解ないようにしていただきたい。遠隔で会議に出席する場合，カメラとマイク付きのノートパソコンであれば，追加費用は発生しないか。」

吉崎理事 「追加費用は発生しない。ただ，安価なもので構わないがヘッドセットを利用すると雑音もなく快適である。」

黒倉理事 「接続の予行練習はやるのか。」

吉崎理事 「詳細は決まっていないが次回理事会の前に遠隔からの出席者は事前に接続の確認を行う予定である。」

良永理事 「秋季大会も遠隔会議を検討してほしい。」

吉崎理事 「秋季大会会場の通信状況に依存する。通信状況が良ければ問題なく遠隔会議が可能である。」

萩原理事 「理事会開催中の会議の入退出の管理はできるのか。」

吉崎理事 「Zoom に録画機能があるので問題ない。」

審議の結果，出席理事全員一致で可決した。

第 6 号議案 「会計処理規程の一部改正」の件（別紙 2）

吉崎総務担当理事から，会計処理規程の一部改正について原案の説明があった。審議の結果，出席理事全員一致で別紙のとおり可決した。

第 7 号議案 「職員育児・介護休業規程の一部改正」の件（別紙 3）

吉崎総務担当理事から，職員育児・介護休業規程の一部改正について原案の説明があった。審議の結果，出席理事全員一致で別紙のとおり可決した。

第 8 号議案 「学会誌著作権ポリシー及び投稿規程の一部改正」の件（別紙 4）

東海編集担当理事から，学会誌著作権ポリシー及び投稿規程の一部改正について原案の説明があった。本件について以下の質疑応答があった。

佐藤会長 「86 巻以前のものはどうなるのか。」

東海理事 「原則として日本水産学会に帰属しているという取り扱いである。
出版社が変更された場合の議論も編集員委員会ではあった。」

佐藤会長 「出版社が変われば変更が必要になるか。」

東海理事 「大手出版社は類似した著作権ポリシーを有しているので出版社
が変更されてもさほど変わることはないと予想される。」

審議の結果、出席理事全員一致で別紙のとおり可決した。

第 9 号議案 「漁業懇話会委員会委員及び水産政策委員会委員の交代」の件
吉崎総務担当理事から、原案について説明があった。本件について以下の
質疑応答があった。

金子理事 「委員は学会員である必要はあるか。」

佐藤会長 「学会員でなくて問題ない。」

審議の結果、出席理事全員一致で次のとおり可決した。

[退任] 中屋新二

[選出] 金柱 守

第 10 号議案 「業務管理システムのプログラム改修の業務委託契約書」の件

吉崎総務担当理事から、業務管理システムのプログラム改修の業務委託契
約書について原案の説明があった。本件について以下の質疑応答があった。

北田監事 「マルチブラウザ対応とはどういうことか。」

吉崎理事 「現在のシステムの OS は Windows 7 でブラウザは Internet
Explorer であるが、新システムは最新の OS と現行存在する複
数種の最新ブラウザで利用できるということである。」

北田監事 「費用対効果については改善される予定か。」

佐藤会長 「大幅に改善されているようである。」

東海理事 「Windows 7 のサポートが終了するので今のうちに改修が不可欠で
ある。」

金子理事 「支払いが 3 回に分けて行われる予定であるが、予算措置や会計
処理に問題はないか。」

吉崎理事 「問題ない。」

審議の結果、出席理事全員一致で原案のとおり可決した。

第 11 号議案 「水産学シリーズ 156 の中国語翻訳出版契約書」の件

越塩出版担当理事から、水産学シリーズ 156 の中国語翻訳出版契約書につ
いて原案の説明があった。本件について以下の質疑応答があった。

佐藤会長 「委任状の氏名は日本水産学会でよいのか。通常は会長名ではな
いか。」

越塩理事 「確認する。」

審議の結果、出席理事全員一致で原案のとおり可決した。

第 12 号議案 「沿岸環境関連学会連絡協議会への参加に伴う経費支出」の件

東海財務担当理事から、沿岸環境関連学会連絡協議会のジョイントシンポ
ジウム参加に伴う経費支出について原案の説明があった。続いて萩原環境保
全担当理事及び中田環境保全担当理事から補足説明があった。

佐藤会長 「どれくらいの学会が参画するのか。」

- 萩原理事 「10学会程度である。」
- 黒倉理事 「事務局はあるのか。」
- 中田理事 「水産環境保全委員会の中に沿岸環境関連学会連絡協議会担当を作っている。」
- 黒倉理事 「事務局がないのは変である。」
- 東海理事 「参画している学会が持ち回りで運営している。今後は本学会との関連や運営をしっかりと見極めたうえで確認しながら経費支出をする必要がある。」
- 吉崎理事 「資料に日本水産学会主催分で費用が掲載されているがこれはどういう意味か。」
- 東海理事 「年1回以上は講演会を行っているが規則的ではない。」
- 舞田理事 「日本水産学会が経費を支出していて実際の講演会は土木学会が主催であるというのは資金の支出先が不明瞭である。」
- 東海理事 「日本水産学会が主催ということで開催されればつじつまが合う。」
- 佐藤会長 「日本水産学会は現在後援とあるが、土木学会とともに主催として明記したうえで経費支出の承認をしたらどうか」
- 萩原理事 「日本水産学会の主催を条件に経費支出を認めるということか。今から主催への変更はかなり厳しい。」
- 金子理事 「これまでの経緯を読んでも経費支出については理解できない。」
- 東海理事 「従前、理事会ではこの件について審議を続けてきた。」
- 萩原理事 「この経費は毎年水産環境保全委員会の予算に計上してあるが、依頼書には細かいことがたくさん書いてありこれが疑問を招いている。」
- 東海理事 「毎年主催分として経費が計上されているが、開催内容が異なる場合があったり、経費の要求される際に内容が示されていないなどの問題があるのでしっかり学会としても精査したうえで支出の決定を行うべきであろう。」
- 北田監事 「後援は負担金なしで依頼されている。」
- 佐藤会長 「後援依頼も来ている。経費支出とは別である。」
- 中田理事 「沿岸環境関連学会連絡協議会へは水産学会がかなりのサポートしてきた経緯がある。水産環境保全委員会の枠に入り込んでいるのでしっかり仕分けをして経費支出に関しても検討すべきである。」
- 北田監事 「年一回の日本水産学会主催分と本件は内容が違うということか。」
- 東海理事 「そう読むのであれば、今回の経費については出せませんと答えるしかない。」
- 北田監事 「素直に読むと内容が異なるように見える。」
- 東海理事 「書面上の手続きを見ると明らかに誤りであるが、理事会が寛容に対応するかどうかである。」
- 黒倉理事 「水産環境保全委員会が今後も沿岸環境関連学会連絡協議会をか

なりの比重を持って支えていく何らかの目標が語れるならば将来を鑑みて対応しても良いと思うが、どうだろう。」

北田 監事 「水産学会のリーダーシップの下で環境問題を議論するシンポジウムを開催するという事なら予算支出を認めることも理解できる。」

日向野 理事 「共催，協賛，後援の申し合わせとの整合性は取れているのか。」

吉崎 理事 「後援は負担金なしで依頼されているので今回の負担金支出の依頼とは独立している。そのため，規程に照らし合わせて承諾することとは異なる。」

東海 理事 「依頼の文章，講演会の運営方法，経費の使途についても若干不明瞭な点もあるので，今回は負担金支出の見送りという理事会の判断でよろしいか。」

佐藤 会長 「負担金支出をしないということで良いのか。」

東海 理事 「理事会の了承が得られない場合は水産環境保全委員会に対応を検討してもらうしかない。金額的に負担は少ないが，理事会の判断を尊重するしかない。」

萩原 理事 「少なくとも過去の 2 年間の議案には上がってきていない案件である。問題ないということで認めてきている。」

舞田 理事 「過去の経緯は公益法人化前の経緯であるが，現状公益法人として使途があいまいなものに対しての支出は合理的な説明をする必要がある。負担金の支出を承認するには明確な使途を示していただく必要がある。」

和田 理事 「土木学会，海洋学会，水産工学会が沿岸環境関連学会連絡協議会を設立した際に日本水産学会が参画を呼びかけられたけれども協賛という形で活動を続けてきた。運営が経費も含めて明確でないと判断できないし，理事会の理解が得られないと負担金支出はできない。これまでの窓口は水産環境保全委員会なので水産環境保全委員会から全体の経費支出や運営方法等を確認することが必要である。」

審議の結果，本件は継続審議とし，運営の詳細の説明が得られた時点で経費支出の決定を判断することとした。

第 13 号議案 「男女共同参画学協会連絡会への参加形態変更」の件

岡崎男女共同参画担当理事から，男女共同参画学協会連絡会への参加形態を正式加盟からオブザーバー加盟に変更することについての説明があった。

審議の結果，出席理事全員一致で原案のとおり可決した。

第 14 号議案 「令和 2 年度春季大会における発表を行わない学部学生の参加費無料化の試み」の件

高野若手の会担当理事から，令和 2 年度春季大会における発表を行わない学部学生の参加費無料化の試みについて原案の説明がなされた。さらに金子総務担当理事（令和 2 年度春季大会委員長）から，補足説明がなされた。本

件について以下の質疑応答があった。

黒倉理事 「どうやって周知するのか。工夫する必要がある。」

金子理事 「学部3年時末の学生に学会の雰囲気を経験してほしい。」

佐藤会長 「ホームページ等で若手の会を中心に周知してほしい。」

岡崎理事 「今回は無料ということであるが、無料ということが議論して決まったことなのか。登録システムについても検討してほしい。」

佐藤会長 「今回は試行として行う。」

審議の結果、出席理事全員一致で原案のとおり可決した。

第15号議案 「Fisheries Science 86巻における会員販売促進の継続」の件

吉崎総務担当理事から、Fisheries Science 86巻における会員販売促進の継続について原案の説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で原案のとおり可決した。

第16号議案 「日本水産学会誌 86巻における会員販売促進の継続」の件

吉崎総務担当理事から、日本水産学会誌 86巻における会員販売促進の継続について原案の説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で原案のとおり可決した。

第17号議案 「令和2年度日本農学賞受賞候補者の推薦」の件

萩原学会賞担当理事より、令和2年度日本農学賞受賞候補者の推薦について原案の説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で原案の通り可決した。

第18号議案 「令和2年度日本農学会運営委員の選出」の件

吉崎総務担当理事から、令和2年度日本農学会運営委員の選出について原案の説明があった。

審議の結果、出席理事全員一致で以下のとおり可決した。

[選出] 渡邊壮一（東大院農）

第19号議案 「後援」の件

吉崎総務担当理事から、原案の説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で以下の後援を可決した。

①第36回沿岸環境関連学会連絡協議会ジョイントシンポジウム

主 催 土木学会海岸工学委員会

共 催 沿岸環境関連学会連絡協議会

後 援 京都大学防災研究所

日 程 令和2年1月11日

場 所 東京海洋大学品川キャンパス白鷹館（東京都港区）

希 望 後援

負担金 なし

第20号議案 「入会承認」の件

入会希望者リストの回覧を行い、審議の結果、出席理事全員一致で原案のとおり可決した。

(報告事項)

①第5回理事会以降の職務執行の状況

・会長

佐藤会長から、次の報告があった。

1) 水産学若手の会委員会について

韓国水産科学会 KOFFST 国際会議へ若手研究者を派遣した。派遣した研究者は最優秀ポスターを受賞した。秋季大会中に第2回の委員会を開催した。来年のイギリス諸島水産学会の出席希望を12月15日締め切りで募っている。2月の理事会までに選考を行い、理事会で承認を得たい。

2) 水産・海洋科学研究連絡協議会について

11月28日に東京海洋大学で協議会が開催され、関連学会間での意見交換が行われた。また、12月19日に日本学術会議主催公開シンポジウム「わが国の水産養殖の未来像」を日本学術会議講堂で開催する。竹内俊郎元会長が委員長を務める。

・庶務関係

吉崎担当理事から、下記の報告がなされた。

1) 令和2・3年度支部幹事選挙結果について

2) 令和2・3年度役員候補者（理事及び監事）選挙結果について

3) 令和2・3年度会長、副会長意向調査について

4) 除名者（会費未納）及び資格喪失者（会費未納）の会費納入による退会への変更について

Luis A. Pastene（学生会員，平成4年度除名）

Ha Viet Dao（外国会員，平成26年資格喪失）

5) 学会事務職員の期末手当について

6) 協賛及び後援について

共催，協賛，後援の取り扱い申し合わせ3)を適用した。

①第19回基準油脂分析試験法セミナー

主催 日本油化学会

協賛 日本農芸化学会 他4学協会

日程 令和元年11月14日・15日

場所 油脂工業会館（東京都中央区）

希望 協賛

負担金 なし

②海洋調査技術学会第31回研究成果発表会

主催 海洋調査技術学会

協賛 海中海底工学フォーラム 他19学協会

日程 令和元年11月28日・29日

場所 東京海洋大学越中島キャンパス 85周年記念会館（東京都江東区）

希望 協賛

負担金 なし

③ 第 57 回アイソトープ・放射線研究発表会

主 催 日本アイソトープ協会
協賛・後援 応用物理学会 他 61 団体
日 程 令和 2 年 7 月 7 日～9 日
場 所 東京大学弥生講堂（東京都文京区）
希 望 後援
負担金 なし

④ 第 21 回マリンバイオテクノロジー学会大会

主 催 マリンバイオテクノロジー学会
協 賛 電気化学学会 他 24 学協会
日 程 令和 2 年 5 月 30 日・31 日
場 所 東京農工大学小金井キャンパス（東京都小金井市）
希 望 協賛
負担金 なし

・企画広報関係

金子担当理事から、9 月 10 日に開催された第 5 回委員会及び 11 月 14 日に開催された第 6 回委員会について報告があった。いずれの委員会でも日本水産学会誌の掲載記事の検討が進められた。特に日本水産学会誌 86 巻 1 号と直近の 3 号については原著論文が極端に少ない傾向が見られたことが報告され、その原因と対策については調査・検討を進めることとした。

・財務関係

東海担当理事から、Web 会議システム Zoom の利用について検討したとの報告があった。

・編集関係

東海担当理事から、以下の報告があった。

- 1) 9 月 9 日に編集委員会が開催された。
- 2) 科研費の事業計画のオープンアクセス総説執筆者を 7 名選出した。
- 3) 著作権ポリシーの変更について改正を進めていくことを決定した。
- 4) 論文賞における第一段選考の分野別担当者を決定した。
- 5) 日水誌の配本停止と電子ジャーナル化に伴い、巻末の索引を廃止した。
- 6) 日水誌における電子ジャーナルのアクセス制限について議論した。
- 7) 令和 2 年 1 月 28 日に第 5 回編集委員会を開催し、論文賞の選考を行う予定である。

・学会賞関係

萩原担当理事から、令和元年度日本農学進歩賞について井ノ口 繭氏が受賞し、11 月 22 日に東京大学弥生講堂にて授賞式及び講演会が行われたとの報告がなされた。

・シンポジウム関係

横山担当理事から、シンポジウム企画委員会が 9 月 9 日に開催され、令和 2

年度の春季大会に予定されているシンポジウムについて審議を行ったと報告があった。本件について以下の質疑応答があった。

金子理事 「大会開催期間に影響があるのでシンポジウムの開催件数については早めに教えてほしい。」

横山理事 「承知した。」

・出版関係

越塩担当理事から、令和2年1月8日に出版委員会を開催し、水産学の百科事典について特別委員会の設置や若手の執筆等を議論する予定であり、次回理事会で報告するとの報告があった。本件について以下の質疑応答があった。

佐藤会長 「出版社の状況はどのようになっているか。」

越塩理事 「企画の原案について社内決裁が下りている状況である。」

・水産技術誌監修関係

日向野担当理事から、9月20日に企画・編集委員会が開催され、原著論文4報、資料2報の計6報についての水産技術への掲載の審議を行い、10巻1号への掲載を可としたとの報告があった。現在、委員会の指摘事項を修正して印刷作業を進めており、年内に刊行される予定であるとの報告があった。

・国際交流関係

中田担当理事及び国際交流委員会委員長を務める萩原理事から、9月9日に開催された第2回の委員会について以下の報告があった。

- 1) イギリス諸島水産学会への若手研究者の派遣、学情交流協定の更新について報告があった。
- 2) アジア水産学会への参加報告と来年開催される WFC の準備状況の報告があった。
- 3) 本年度の春季大会における SDGs セッションについてはアンケート結果も踏まえて今後の方針を協議した。来年の春季大会でも実行委員会の支援を得てセッションを継続実施する。具体的な対応策は今後検討していく。大会実行委員会の支援を受けながら進めていく。ホームページでの春季大会での案内に合わせて英語セッションの募集を募る。特に日本人の若手の方の応募をお願いしたい。
- 4) 交流協定を締結している海外の関連学会への若手研究者の派遣について検討し、基本的に人選を若手の会委員会に依頼して国際交流委員会で支援する形で進めることとした。本年度韓国水産科学会 KOFFST 国際会議へ若手研究者を派遣し、来年度のイギリス諸島水産学会への若手研究者の派遣については募集者を募って現在選考を進めている。
- 5) 韓国水産科学会との交流協定及び覚書について更新した。
- 6) 韓国水産科学会 KOFFST 国際会議へ参加した若手研究者の報告を日水誌に掲載する予定である。
- 7) 来年の10月にオーストラリアのアデレードで開催される WFC のアブストラクトの受付が開始され、締め切りが1月31日であるが前回と同様に受付

期間が延長される可能性がある。多数の参加をお願いしたい。

- ・水産教育関係

良永担当理事から、水産教育推進委員会が令和元年 9 月 10 日に開催され、次の春季大会で水産学教育推進委員会が主催する水産教員の不足という観点からの問題提起と解決策を題材としたミニシンポジウムを開催するとの報告があった。また、JABEE 関連では来年度から認定基準が大きく変わるという報告があった。続いて佐藤会長から「海とさかな」自由研究・作品コンクールにおいて日本水産学会会長賞の選考を行い、「海のレジュー」と「ストロンボイドノッチの秘密」という題で 2 名を選出した旨報告があった。なお、12 月 7 日に表彰式が行われる。

- ・水産政策関係

黒倉担当理事から、緊急に議論する議題はないが、なにかあればご連絡をいただきたいとの要請があった。

- ・漁業・資源管理関係

東海担当理事から、漁業懇話会で奨励賞の選考を進めているとの報告があった。また、次の春季大会で第 72 回漁業懇話会講演会「ギアテレメトリー（漁具運動情報遠隔測定）の現状～水産学シリーズ「テレメトリー」から 14 年～」を令和 2 年 3 月 26 日に開催するとの報告があった。

- ・水産利用関係

岡崎担当理事から、令和元年 11 月 22 日に 2019 年度の第 3 回委員会を開催し、第 2 回水産利用懇話会講演会を日本大学生物資源科学部藤沢キャンパスで開催したとの報告があった。

- ・水産増殖関係

家戸担当理事 特になし

- ・水圏環境関係

萩原担当理事から、令和元年 9 月 8 日に水産環境保全委員会及び令和元年度水産環境保全委員会研究会「近年の麻痺性貝毒原因プランクトンの発生拡大を巡る問題と研究の課題」を開催し、大変盛況であったとの報告があった。また、令和 2 年 1 月 11 日開催の第 36 回沿岸環境関連学会連絡協議会ジョイントシンポジウム「沿岸分野の各学会における気候変動対応：学会間のトレードオフとシナジー効果を明らかにする」について議論を行い、開催についての具体的な内容が決定したとの報告があった。

- ・男女共同参画関係

岡崎担当理事から、令和元年 9 月 10 日に第 2 回委員会を開催したとの報告があった。第 17 回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムは台風で中止となったが、資料集は郵送されているとの報告があった。また、シンポジウムは科学・技術分野の次世代育成と環境づくりというテーマで開催する予定であったとの報告があった。

- ・社会連携関係

安井担当理事から、支部大会などで行われている社会連携の事例を抽出す

ることを目的に 9 月に支部長，幹事へ産学連携の事例集とフォーマットを送付したとの報告があり，良い事例を記入して北海道支部にて取りまとめを行うので送付してほしいとの要請があった。

・将来計画関係

和田副会長から，若手の会員を中心にアンケートを取り，集計を行いたいとの要望が出された。具体的な内容については業務執行会議で議論する。

・北海道支部，地域連携関係

安井担当理事から，以下の報告があった。

- 1) 令和元年度の北海道支部大会を 11 月 2 日及び 3 日に札幌で行い，公開講座「道民に身近な水産資源の利用と新しい特産物の開発」を開催した。参加者 99 名で大変盛況であった。その中で地域社会連携の一環として試食会を実施したり，企業の開発した試供品の提供を行った。企業紹介ブースも設けた。一般発表も参加者 88 名，演題数 26 題で学生の参加は 10 名であった。最優秀学生講演賞を 3 名選出し，表彰を行った。
- 2) 11 月 3 日に支部の幹事会と総会，若手の会が行われた。公開シンポジウム「国際サーモン年におけるサケの持続可能な資源管理に向けた研究活動」は 93 名に参加があった。
- 3) 令和 2 年度の秋季大会の準備を進めている。

・東北支部，地域連携関係

佐藤会長から，以下の報告があった。

- 1) 支部幹事会を 3 回(メール会議)，幹事・連絡調整員合同会議 1 回を行った。
- 2) 支部大会を行い，ミニシンポジウム「東北地方におけるアサリ資源の現状と課題」を開催した。演題は 8 題，参加者数は 35 名であった。また，一般研究発表は 15 題，参加者数 31 名であった。
- 3) 東北支部長賞 2 件，水産・海洋系高校生研究発表大会における支部長奨励賞 1 件を表彰した。

・関東支部，地域連携関係

舞田担当理事 特になし

・中部支部，地域連携関係

横山担当理事から，秋季大会を開催し，その中で支部大会を開催し，幹事会，総会および支部主催でシンポジウム 1 件を実施したとの報告があった。

・近畿支部，地域連携関係

家戸担当理事から，以下の報告があった。

- 1) 令和元年 11 月 23 日に近畿支部例会と第 18 回水産増殖学会大会を合同開催し，120 名の参加者があった。シンポジウムと高校生のポスター発表，一般のポスター発表と口頭発表を行った。
- 2) 高校生のポスター発表 8 題のうち，2 題を表彰し，口頭発表についても若手の 7 題の発表のうち，2 題を表彰した。若手のポスター発表については日本水産増殖学会から表彰が行われた。

・中国・四国支部，地域連携関係

日向野担当理事から、令和元年 10 月 26 日に開催した幹事会、総会、支部大会について以下の報告があった。

- 1) 参加者は 68 名、口頭発表 15 件、一般のポスター発表 10 件、高校生のポスター発表 5 件が行われた。
- 2) 口頭発表の優秀賞と高校生のポスター発表の優秀賞と努力賞の表彰を行った。
- 3) シンポジウムは瀬戸内海水産フォーラムと合同で開催し、タイトルは「1980 年代以降の生物相の変化と適応策」であった。参加者は 75 名であった。

・九州支部、地域連携関係

越塩担当理事から、令和元年 12 月 7 日、8 日開催する九州支部の支部大会、総会、例会について以下の報告があった。

- 1) 鹿児島大学水産学部にて開催する予定である。
- 2) 7 日には支部幹事会、総会、一般研究発表、高校生によるポスター発表、表彰式、会員交換会が予定されている。
- 3) 2 会場で 21 題の研究発表および 3 題の高校生の発表が行われ、学生会員のみ表彰を行うことにしている。
- 4) 8 日に開催予定の支部例会シンポジウムでは「南九州のウナギ資源および養殖生産の未来」のタイトルで 6 名の演者に講演していただく予定である。

・英文書籍監修委員会（特別委員会）

吉崎担当理事 特になし

・東日本大震災災害復興支援検討委員会（特別委員会）

黒倉担当理事 特になし

・財務検討委員会（特別委員会）

萩原担当理事 特になし

②その他確認事項

(1) 事業計画・予算書及び事業報告・決算報告の提出日程について

吉崎総務担当理事から事業計画・予算書及び事業報告・決算報告の作成について日程を含めて説明があり、締め切りを厳守するよう要請があった。

(2) 引継ぎ事項について

佐藤会長から各理事が担当・実施した内容における引継ぎ事項について各理事がまとめて提出するように要請がなされた。

(3) 次回の理事会について

佐藤会長から次回理事会は令和 2 年 2 月 8 日に 13 時より東京海洋大学品川キャンパスで開催するとの説明があった。

以上をもって議案の審議等を終了したので、16 時 20 分、議長は閉会を宣言し、解散した。

以上、この議事録が正確であることを証するため、出席した議長（代表理事）及び監事は記名押印する。

令和元年 11 月 30 日

公益社団法人 日本水産学会

議長 会長（代表理事）

監 事

監 事